



# 安全データシート (SDS)

## 1. 化学品及び会社情報

昭和化学株式会社  
 東京都中央区日本橋本町4-3-8  
 担当  
 TEL(03)3270-2701  
 FAX(03)3270-2720  
 緊急連絡 同上  
 改訂日 2022/12/14  
 SDS整理番号 01339150

製品等のコード : 0133-9150、0133-9130、0133-9140、0133-9160  
 製品等の名称 : 硫酸四アンモニウムセリウム( )四水和物  
 推奨用途 : 試薬  
 使用上の制限 : 推奨用途以外の用途へ使用する場合は化学物質専門家等の判断を仰ぐこと

## 2. 危険有害性の要約

### GHS分類

物理化学的危険性  
 可燃性固体 : 区分に該当しない  
 自然発火性固体 : 区分に該当しない  
 自己発熱性化学品 : 区分に該当しない  
 水反応可燃性化学品 : 区分に該当しない

健康に対する有害性  
 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分2B

絵表示又はシンボル : 該当なし

注意喚起語 : 警告

危険有害性情報  
 眼刺激

### 注意書き

#### 【安全対策】

取扱い後は、よく手を洗うこと。  
 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。

#### 【応急措置】

眼に入った場合：水で15分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
 眼の刺激が続く場合：医師の診察、手当を受けること。

#### 【保管】

直射日光を避け、容器を密閉して冷暗所に保管すること。

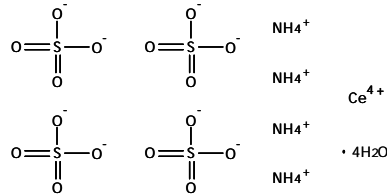
#### 【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「区分に該当しない(分類対象外も該当)」又は「分類できない」である。

## 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 化学物質  
 化学名 : 硫酸四アンモニウムセリウム( )四水和物



	(別名) 四硫酸四アンモニウムセリウム( ) 四水和物
	(英名) Tetraammonium cerium( ) sulfate tetrahydrate、 Tetraammonium cerium tetrakis(sulphate)
	(EC名称、無水物として)、 Sulfuric acid, ammonium cerium(4+) salt (4:4:1)
	(TSCA名称、無水物として)、
成分及び含有量	: 硫酸四アンモニウムセリウム( ) 四水和物、 99.0%以上
化学式及び構造式	: $Ce(NH_4)_4(SO_4)_4 \cdot 4H_2O$ 、 $CeH_{16}N_{40}O_{16}S_4 \cdot 4H_2O$ 、 $(NH_4)_4Ce(SO_4)_4 \cdot 4H_2O$ 、 構造式は上図参照(1ページ目)。
分子量	: 668.58
官報公示整理番号	: (1)-400〔硫酸アンモニウム〕、 (1)-629〔硫酸セリウム〕
化審法	: 公表化学物質(化審法番号を準用)
安衛法	: 18923-36-9(無水物: 7637-03-8)
CAS No.	: 未登録(無水物として登録済; 18923-36-9, ACTIVE)
TSCAイベントリ	: 未登録(無水物として登録済; 231-567-4)
ECイベントリ	: 未登録(無水物として登録済; 231-567-4)
危険有害成分	: 硫酸四アンモニウムセリウム( ) 四水和物

4. 応急措置

吸入した場合	: 呼吸が困難になった時は、新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪い時は、医師の手当を受ける。
皮膚に付着した場合	: 皮膚を流水と石鹸で洗う。 皮膚刺激などが生じた時は、医師の手当を受ける。
目に入った場合	: 汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。 直ちに、清浄な水で15分以上注意深く洗う。その際、顔を横に向けてからゆっくり水を流す。水道の場合、弱い流れの水で洗う。勢いの強い水で洗淨すると、かえって目に障害を起こすことがあるので注意する。 まぶたを親指と人さし指で拵げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行き渡るように洗淨する。 次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。 その後洗淨を続ける。
飲み込んだ場合	: 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、治療を受ける。 口をすすぎ、うがいをする。 大量の水を飲ませ、指を喉に差し込んで吐かせる。 意識がない時は、何も与えない。 気分が悪い時は、医師の手当を受ける。
予想される急性症状及び遅発性症状: 情報なし	

5. 火災時の措置

適切な消火剤	: 本製品は不燃性である。 周辺火災の種類に応じた消火剤を用いる。 粉末消火剤、二酸化炭素、散水、噴霧水、泡消火剤
使ってはならない消火剤	: 棒状放水(本品があふれ出し、生物に対する有害性や環境汚染を引き起こすおそれがある。)
特有の危険有害性	: 火災中に熱分解し、刺激性又は毒性のガス及びヒュームを発生する可能性がある。 消火水は環境汚染を引き起こすおそれがある。
特有の消火方法	: 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
消火を行う者の保護	: 有毒ガス等の接触を避けるため、消火作業の際は風上から行い、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	: 漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。 漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。 風上から作業し、粉じん、蒸気、ガスなどを吸入しない。 皮膚、眼などの身体とのあらゆる接触を避ける。 粉じんが飛散する場合は、水噴霧し飛散を抑える。 密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。
環境に対する注意事項	: 河川、下水道、土壤に排出されないように注意する。
回収、中和	: 漏洩物を掃き集め、密閉できる空容器に回収する。 漏洩物が飛散する場合は、水を散布し湿らしてから回収する。 回収した漏洩物は、後で産業廃棄物として適正に廃棄処分する。 後処理として、漏洩場所は大量の水を用いて洗い流す。
封じ込め及び浄化の方法・機材	

- 二次災害の防止策 : 危険でなければ漏れを止める。  
 : 事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。  
 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い  
 技術的対策 : 本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。  
 粉じん、ミスト、蒸気、ガスの発生を防止する。  
 粉じんの堆積を防止する。  
 局所排気・全体換気 : 換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。  
 安全取扱い注意事項 : すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。  
 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの  
 取扱いをしてはならない。  
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。  
 取扱い後はよく手を洗う。  
 粉じん、蒸気、ガスを吸入しない。  
 眼に入れない。  
 接触、吸入又は飲み込まない。  
 内容物の漏洩及び蒸気の発散を極力防止する。  
 接触回避 : 湿気、水、高温体との接触を避ける。  
 保管  
 技術的対策 : 保管場所は耐火構造とし、出入口は施錠する。  
 保管場所は、採光と換気装置を設置する。  
 保管条件 : 直射日光や高温多湿を避けて保管する。  
 容器を密閉して冷暗所に保管する。  
 混触危険物質 : 強酸化剤  
 容器包装材料 : ポリプロピレン、ポリエチレン、ガラスなど

8. ばく露防止及び保護措置

- 管理濃度 : 設定されていない。  
 許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標) : 日本産衛学会 : 設定されていない。  
 ACGIH : 設定されていない。  
 設備対策 : この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には手洗い器、洗眼器、安全シャワー  
 を設置する。  
 取扱場所には局所排気又は全体換気装置を設置する。  
 保護具  
 呼吸器の保護具 : 呼吸器保護具(防じんマスク等)を着用する。  
 手の保護具 : 保護手袋(塩化ビニル製、ニトリル製など)を着用する。  
 眼の保護具 : 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)を着用  
 する。  
 皮膚及び身体の保護具 : 長袖作業衣を着用する。  
 必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。  
 衛生対策 : この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。  
 取扱い後はよく手を洗う。  
 作業衣を家に持ち帰ってはならない。  
 保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

9. 物理的及び化学的性質

- 物理状態  
 性状 : 結晶又は結晶性粉末  
 色 : 黄色～橙色  
 臭い : 無臭  
 pH : 強酸性(水溶液)  
 融点 : データなし  
 凝固点 : データなし  
 沸点 : データなし  
 蒸気圧 : データなし  
 引火点 : 不燃性  
 可燃性 : 不燃性  
 爆発範囲 : データなし  
 蒸気圧 : データなし  
 相対ガス密度(空気 = 1) : データなし  
 密度又は相対密度 : データなし  
 比重 : データなし  
 溶解度 : 水に溶ける。  
 希硫酸に溶ける。



埋め立てたり投棄することは避ける。  
 (参考) 希釈法  
 水に溶かし、溶液のpHをアルカリ性物質で中性にした後、大量の水と共に排水処分とする。  
 排水に際し、水質汚濁防止法の排水基準を遵守する。  
 汚染容器及び包装 : 内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。  
 空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

国内規制 (適用法令)

陸上規制 : 特段の規制なし (非危険物)  
 海上規制 : 特段の規制なし (非危険物)  
 航空規制 : 特段の規制なし (非危険物)  
 国連番号 : 非該当  
 国連分類 : 非該当  
 品名 : 非該当  
 海洋汚染物質 : 非該当  
 MARPOL73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送の有害液体物質の汚染分類 : 非該当  
 特別の安全対策 : 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。  
 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。  
 重量物を上積みしない。

15. 適用法令

労働安全衛生法 : 非該当  
 化学物質排出把握管理促進法 (PRTR) : 非該当 (R5年3月31日まで)  
 ただし、R5年4月1日からPRTR法の対象物質に該当。  
 ・分類 「第1種指定化学物質」  
 ・政令番号 「1-276」  
 ・管理番号 「665」  
 ・政令名称 「セリウム及びその化合物」  
 毒物及び劇物取締法 : 非該当  
 消防法 : 非該当  
 船舶安全法 : 非該当  
 航空法 : 非該当  
 水質汚濁防止法 : 有害物質 (施行令第二条)  
 「アンモニウム化合物」  
 [排水基準] 100mg/L (アンモニア性窒素×0.4、亜硝酸性窒素及び硝酸性窒素の合計量)  
 生活環境項目 (施行令第三条の第一項)  
 「水素イオン濃度」  
 [排水基準] ・海域以外の公共用水域に排出されるもの 5.8以上8.6以下  
 ・海域に排出されるもの5.0以上9.0以下  
 輸出貿易管理令 : キャッチオール規制 (別表第1の16項)  
 HSコード: 2846.10  
 第28類 無機化学品  
 ・輸出統計番号 (2022年版): 2846.10-000  
 「希土類金属、イットリウム又はスカンジウムの無機又は有機の化合物及びこれらの金属の混合物の無機又は有機の化合物 - セリウム化合物」  
 ・輸入統計番号 (2022年12月8日版): 2846.10-090  
 「希土類金属、イットリウム又はスカンジウムの無機又は有機の化合物及びこれらの金属の混合物の無機又は有機の化合物 - セリウム化合物 - その他のもの」

16. その他の情報

(注) 本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

参考文献 :

化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ	化学工業日報社
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ	化学工業日報社(2007)
化学物質の危険・有害便覧	中央労働災害防止協会編
化学大辞典	共同出版
安衛法化学物質	化学工業日報社
産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版
化学物質安全性データブック	オーム社
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	三共出版
化学物質の危険・有害性便覧	労働省安全衛生部監修
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances	NIOSH CD-ROM
GHS分類結果データベース	nite(独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP
GHSモデルMSDS情報	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じ作成しています。